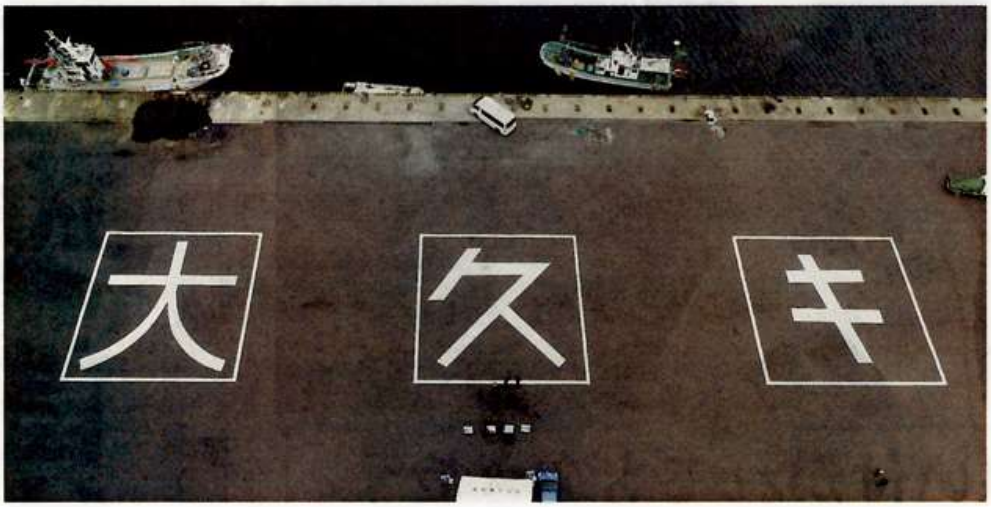
デーリー東北新聞社提供

デーリー東北
2019年（令和元年）7月27日（土曜日）（14）

離着陸 これを目印に

大久喜漁港にドクターヘリ用ランドマーク

ドクターヘリと救急車の合流地点であるランデブーポイントを識別するランドマークが、八戸市鮫町の大久喜漁港にお目見えした。八戸工業大機械工学科の学生が、卒業研究の一環として、2018年より製作。同年12月、当時の4年生が取り掛かり、今年の4年生が6月に完成させた。ドクターヘリが離着陸する地点を目視で容易に識別できることで、より円滑な救命活動が期待される。（舩渡拓）



上空から撮影した大久喜漁港のランドマーク（八戸工業大提供）

八工大生製作 1文字15メートル四方

上空300メートルでも識別可能

ランデブーポイントの識別ランドマークを説明する八戸工業大生

これまで、同市沿岸部のドクターヘリ運用は、上空から各浜に点在する漁港の区別が付きにくいという課題があった。ランドマーク製作は、市立市民病院の今明秀院長から、ドクターカーの共同開発に携わった同大に相談したのがきっかけ。

ランドマークは上空200～300メートルから肉眼で見える大きさで、「大」「久」「キ」と書かれ、1文字の大きさは縦横15メートル。それぞれの文字が目立つように白枠で囲んでいる。メンテナンスしやすいように市販のペンキを使用した。

22日は、現地で学生による完成報告会が開かれた。学生たちはパネルを使って、大久喜漁港の選定理由や作業工程などを出席者に説明した。同病院救命救急センターの野田頭達也所長は来賓代表のあいさつで、「ドクターヘリの安全な運航と、スムーズな救急活動に役立つ」と、ランドマーク設置に謝辞を述べた。

4年の橋本祥苑（しおん）さん(21)は「先輩方の仕事を引き継ぐ形となった。市民のためになると思って作業をしていたので、完成できてうれしい」と話した。